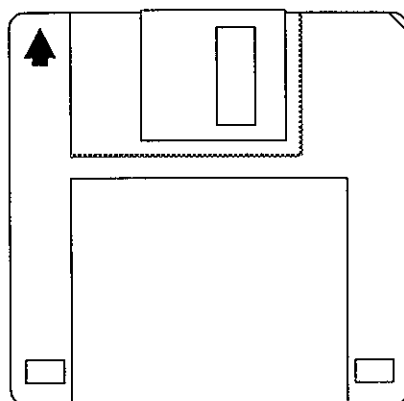


TM-2021-15

携帯型自動血圧計用ソフト(Windows版)

取扱説明書

TM-2420用ソフト
TM-2421用ソフト



AND 株式会社 **エー・アンド・ティ**

注意事項の表記方法



「取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う危険の状態が生じることが想定され、かつ危険発生時の警告の緊急性（切迫の度合い）が高い限定的な場合」（高度な危険を含む）について記述します。



「取扱いを誤った場合に使用者が死亡または重症を負う危険の状態が生じることが想定される場合」について記述します。



「取扱を誤った場合、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険の状態が生じることが想定される場合」について記述します。



「取扱いを誤りやすい場合」や「本機を使用するときの一般的なアドバイス」について記述します。

ご注意

- (1) 本書の一部または全部を無断転載することは固くお断りします。
- (2) 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成しておりますが、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、お買い求めの販売店または最寄りのエー・アンド・デイへご連絡ください。
- (4) 当社では、本機の運用を理由とする損失、損失利益等の請求については、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

© 1995 株式会社 エー・アンド・デイ

株式会社エー・アンド・デイの許可なく複製・改変などを行なうことはできません。

目次

第1章	イントロダクション.....	1
1.	データ解析ソフトの内容.....	1
2.	構成.....	1
3.	機能.....	2
4.	ハードウェア.....	2
5.	ソフトウェアプログラムのインストール.....	2
第2章	操作.....	3
1.	メインメニュー.....	3
2.	レコーダのコンピュータ接続.....	4
3.	ファイルメニューファンクション.....	4
4.	解析メニューファンクション.....	8
5.	レコーダ.....	14
6.	報告書作成ファンクション.....	16
7.	オプションファンクション.....	18
8.	ヘルプメニューファンクション.....	24

1章 イントロダクション

1. データ解析ソフトの内容

本ソフトウェアはウィンドウズ®版血圧解析ソフトです。 当社製品携帯型自動血圧記録計（レコーダ）TM2420/TM2421 と（フロッピー）TM2020/TM2021/TM2022/TM2023 のアンビュートリ血圧計システムに対応しています。本ソフトウェアは高血圧患者の診断、治療、降圧剤などの薬効検査のための有効なツールで、ユーザーインターフェイスとしてユーザー別のトレッド画面設定、レポート形式作成が出来るなどの機能があります。

○解析機能

- ・分かりやすいグラフィック解析
- ・血圧データの統計解析：サマリデータの全データ処理と区間別解析
- ・取得データの編集
- ・患者情報表示

○ユーザーインターフェイス機能

- ・トレッド画面とその構成のユーザー別指定
- ・レポートフォーマットのユーザー別指定
- ・担当医の事前登録と患者情報画面への簡単な呼び出し
- ・汎用のデータ形式に変換するデータ変換機能

装置の概要：

レコーダは患者に装着され、事前にプログラムされた時間間隔で、血圧、脈拍数を記録します。レコーダにより TM2420 のコトコフ音法による血圧測定、 TM2421 のコトコフ音法とオシメトリック法の両測定法による血圧判定があり、記録されたデータの完全なデータセットとその血圧プロフィールを提供します。24 時間毎のモニタを 4 領域に分けて測定間隔設定が出来、各領域を OFF～120 分の間で 10 種類の測定間隔に設定できます。これらの設定はフロッピー上のキー入力或は本ソフトウェアから設定されます。

TM2020/TM2021 はレコーダの設定、測定データのプリントアウトと統計処理が出来、レコーダとパーソナルコンピュータのインターフェイスとして用いられます。TM2022 はレコーダの設定、レコーダとパーソナルコンピュータのインターフェイスとして用いられます。TM2023 はレコーダとパーソナルコンピュータのインターフェイスとして用いられます。レコーダに記録された全てのデータは本ソフトウェアと当社製のオプションの RS232Cケーブルを用いてパーソナルコンピュータ上で解析、保存が出来ます。

2. 構成

本ソフトウェアには次のものが含まれています。

1. 3.5"フロッピーディスク 1 枚
2. 取扱説明書 1 冊

3. 機能

このソフトウェアの機能を下図に示します。

ファイル	解析	レコーダ	レポート	オプション	ヘルプ
読み込み	サマリデータ	データアップロード		レポート形式	概要
コピー	血圧データ	メモリークリア		医者リスト	ファイルヘルプ
削除	トレンド	設定		トレンド表示	解析ヘルプ
データ変換	相関図			初期設定	レコーダヘルプ
終了	ヒストグラム				レポートヘルプ
	患者情報				オプションヘルプ
					ヘルプヘルプ
					区間解析ヘルプ
					血圧モードヘルプ
					エラーコードヘルプ
					用語ヘルプ
					バージョン情報

4. ハードウェア

コンピュータ: 80386SX 以上のマイクロプロセッサ内蔵のパーソナルコンピュータ

メモリ: 4MB 以上

OS: MS-DOS 3.3 以上、Windows 3.1

ディスク: 3.5" ディスクドライブ(2HD)、ハードディスク 10MB 以上の空きが必要

プリンタ: Windows OS でサポートされているプリンタ

その他 マウス 或は 同等のポインティングデバイス

5. ソフトウェアプログラムのインストール

1. Windows を起動してください。
2. 本ソフトウェアのフロッピーディスクをフロッピードライブ A:或は B:に入れてください。
3. プログラムマネージャメニューのファイルをクリックしてください。
4. ファイル内コマンドの「ファイル名を指定して実行」をクリックしてください。
5. コマンドライン: に以下のどちらかを入力してください。
 - ・ A:Setup (Aドライブにディスクが挿入されている場合)
 - ・ B:Setup (Bドライブにディスクが挿入されている場合)
6. Runダイアログボックス内の OKボタンをクリックしてください。インストールを開始します。

※注意: 本ソフトウェアは Windows 上でのみ動作が出来ます。

2章 操作

1. メインメニュー

メインメニューはレコーダからのデータのアップロード、編集、保存、解析、レポート出力などデータ処理に関する全ての処理を選択できます。メニューの選択はマウスにより行います。メインメニュー画面は以下の項目から構成されています。

6メニューファンクション

－ファイル(ファイル管理)

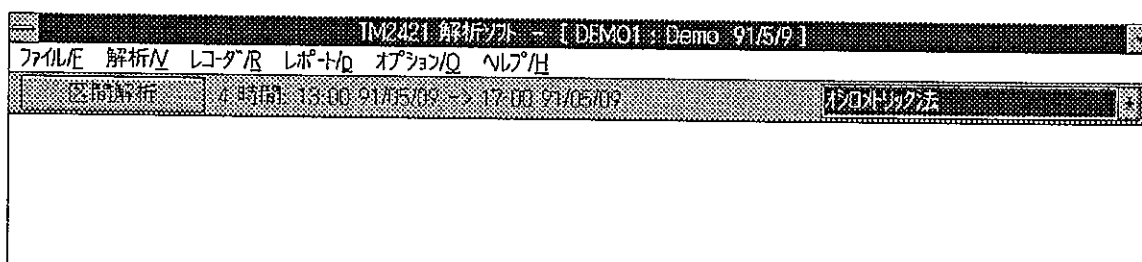
－解析と患者情報(患者情報の編集)

－レコーダ(レコーダコントロールと設定)

－レポート(レポートプリントアウト)

－オプション(医者リストの編集、レポートフォーマット、トレンド画面の設定)

－ヘルプ



{図 1 メインメニュー画面}

全てのファンクションはマウスインターを目的の項目に合わせ、クリックかダブルクリックすることで選択、実行が出来ます。

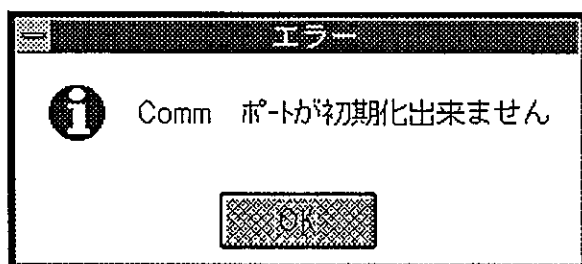
- 1)コントロールメニューボックスをダブルクリックするとプログラムを即座に終了出来ます。
- 2)ミナイスボタンをクリックするとプログラムを動作状態のままアイコン化することが出来ます。
アイコンをダブルクリックするとアイコン化前の状態に戻ります。グラフ表示は消えますので再度実行する必要があります。
- 3)メニューバーは各動作項目をクリックすると、その下のプルダウンメニューが表示されます。プルダウンメニューの項目をクリックするとそれぞれのコマンドが実行されます。
- 4)ツールバーには解析時いつでも使用できるように区間解析や血圧測定モードの設定のコマンドが配置されています。

※メニュー項目やプルダウンメニューで文字が薄くなっている箇所は、その状態では実行できません。データのアップロード、データファイルの読み込みを実行後解析が可能となります。

2. レコーダのコンピュータ接続

レコーダはTM2021シリーズのプロセッサを介して、パーソナルコンピュータのシリアルポートと通信を行うようにデザインされています。

- 1)レコーダとプロセッサを接続し、専用のインターフェイスケーブルを使用してプロセッサとパーソナルコンピュータを接続します。TM2021 と TM2022 の各プロセッサは `0 --- ---` と表示されます。ENTERキーを押すと `--- ---` 表示に変わり通信可能状態になります。TM2023 では緑色のLED が点灯して通信可能状態を知らせます。バッテリー不足マークや赤色のLED が点灯した場合、レコーダの充電を行うか、プロセッサ側からACアダプタを接続して再度実行してください。
- 2)本ウィンドウ専用ソフトウェアを立ちあげます。
- 3)レコーダからデータを読み込みます。

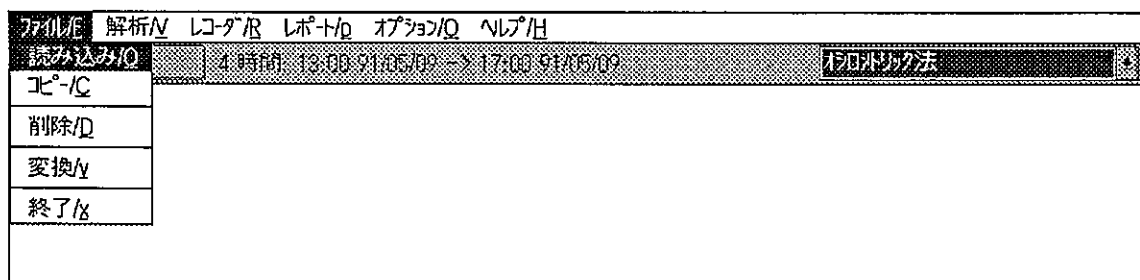


{図2 コムポートエラー画面}

ソフトウェアの立ちあげ時レコーダのセットアップをしていないと上記のエラーメッセージが表示されます。レコーダとの通信を行わない場合はOKボタンをクリックして作業を続けてください。通信を行う場合はレコーダのセットアップ後、本ソフトウェアを立ちあげてください。

3. ファイルメニューファンクション

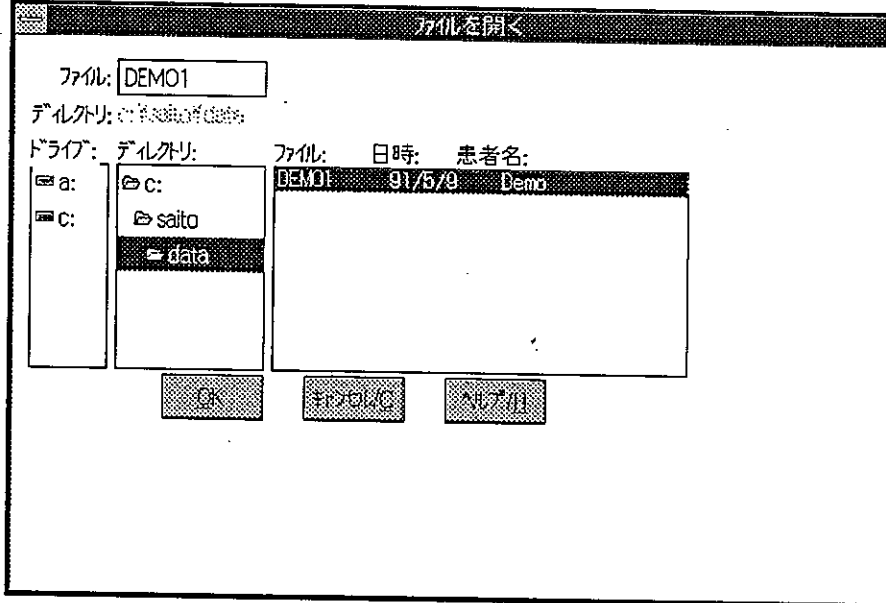
ファイルメニューはファイルを開く、コピーする、削除を行う場合に使用します。また、このソフトウェアを終了する場合にも使用します。



{図3 ファイルメニュー}

メインメニューのファイル/Fをクリックすると上図のプルダウンメニューが表示されます。項目を選択しクリックすると実行されます。

3.1 ファイルのオープン



{図4 ファイル検索ダイアログボックス}

解析するデータをファイルから読み込みます。

1)読み込み/IOをクリックすると図4のファイル検索ダイアログボックスが表示されます。

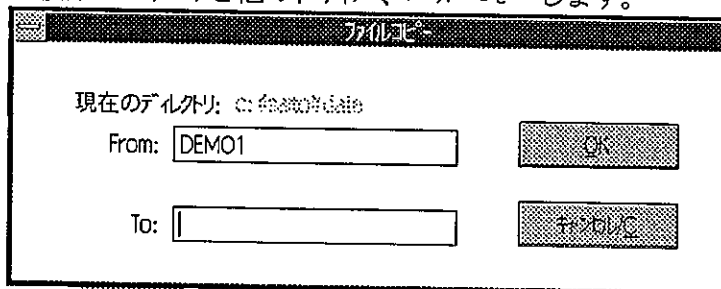
2)ファイルボックスに検索するファイル名を入力します。ファイル選択ボックス内の該当ファイルをクリックすると入力出来ます。

3)OKボタンをクリックします。(データ読み込みを実行します。)

※ドライブ名、パス名の変更は各選択ボックス内の文字をクリックすることで自由に選択出来ます。

3.2 ファイルのコピー

検索したデータを他のドライブ、パスへコピーします。



{図5 コピー先指定ダイアログボックス}

1)コピー/IOをクリックするとコピー元ファイル検索ダイアログボックスが表示されます。

2)ファイルボックスに検索ファイル名を入力します。

ファイル選択ボックス内の該当ファイルをクリックすると入力出来ます。

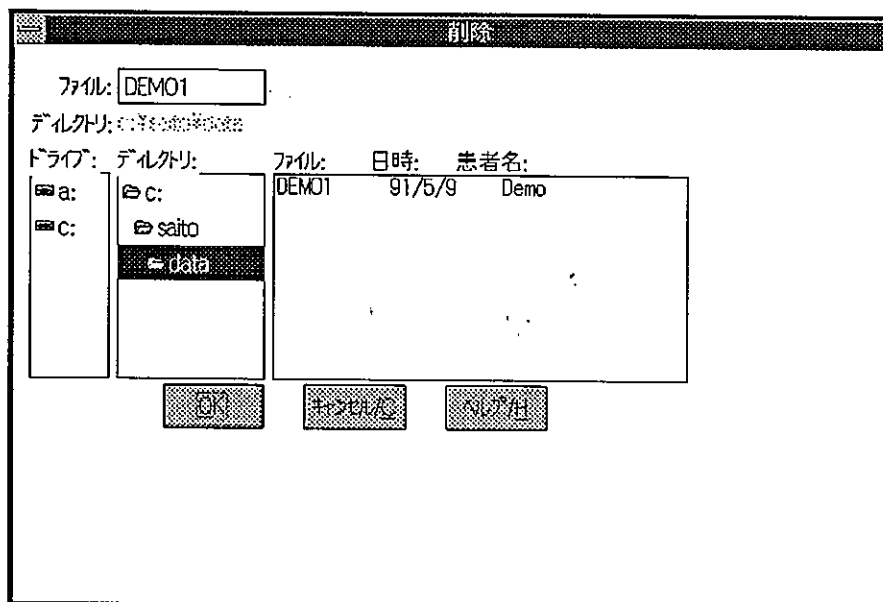
3)OKボタンをクリックします。続いて図5のコピー先指定ダイアログボックスが表示されます。

4)コピー先指定ボックスにドライブ、パス名を含めて指定します。

5)OKボタンをクリックします。(選択されたファイルが指定先へコピーされます。)

3.3 ファイルの削除

検索した不要ファイルを消去します。



{図6 消去ファイル検索ダイアログボックス}

1)削除/Dをクリックすると消去ファイル検索ダイアログボックスが表示されます。

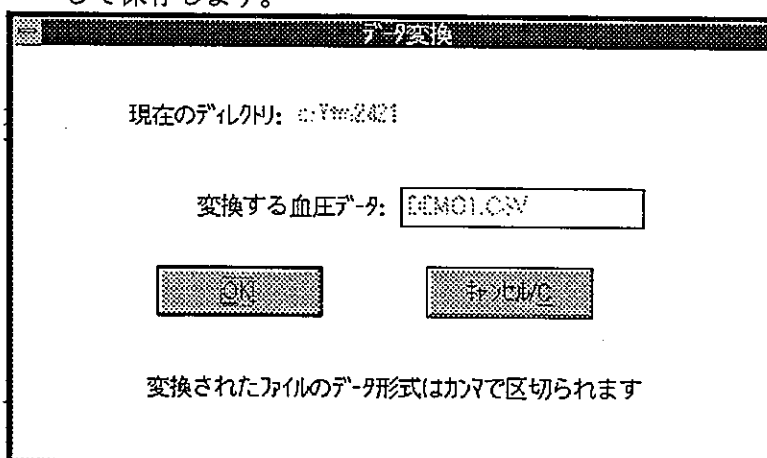
2)ファイルボックスに検索ファイル名を入力します。

ファイル選択ボックス内の該当ファイルをクリックすると入力出来ます。

3)OKボタンをクリックします。再確認をするダイアログボックスが表示されます。消去してよい時はOKボタンをクリックします。(選択されたファイルが消去されます。)

3.4 ファイルの変換

検索したファイルの血圧測定データをスプレッドシートアプリケーションによって読めるようにデータ変換して保存します。



{図7 データ変換ファイル確認ダイアログボックス}

- 1)変換/Vをクリックするとデータ変換ファイル検索ダイアログボックスが表示されます。
- 2)ファイルボックスに検索ファイル名を入力します。
ファイル選択ボックス内の該当ファイルをクリックすると入力出来ます。
- 3)OKボタンをクリックします。確認をする図7のダイアログボックスが表示されます。
OKボタンをクリックすると変換データが保存されます。
変換されたファイルは同じ名前でも、.CSV という拡張子がつけられます。

3.5 プログラムの終了

本解析ソフトを終了します。

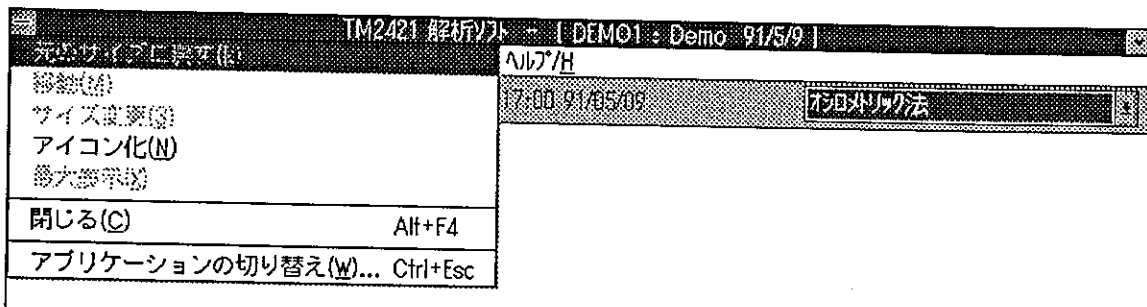
終了の仕方は2種類あります。

(a)ファイルメニューで終了

- 1)ファイルメニューの終了/Xをクリックしてください。(プログラムを終了します。)

(b)コントロールメニューで終了

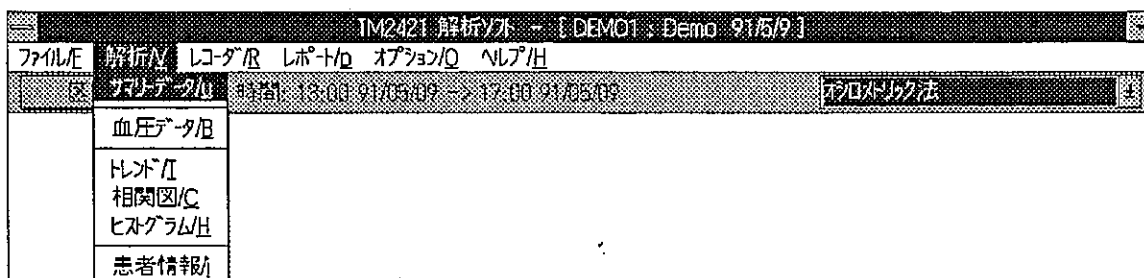
- 1)コントロールメニューボックスをクリックすると図8のコマンドダイアログボックスが表示されます。
- 2)「閉じる(C)」をクリックしてください。(プログラムを終了します。)



{ 図 8 コマンドダイアログボックス }

4. 解析メニュー ファンクション

メニューの解析/Vをクリックすると下記のプルダウンメニューが表示されます。
各コメントを選択し、クリックすると実行されます。



{ 図 9 解析メニュー }

マリアデータ: 全区間、指定区間、昼間、夜間 各々の時間領域でのマリアを表示します。

血圧データ: 血圧データのテーブル表示をします。コメントの入力、データの無効の設定が出来ます。

トレント: 測定データのトレントグラフ表示をします。

相関図: 収縮期血圧—拡張期血圧、収縮期血圧—脈拍の相関グラフ、相関係数、回帰直線を表示します。

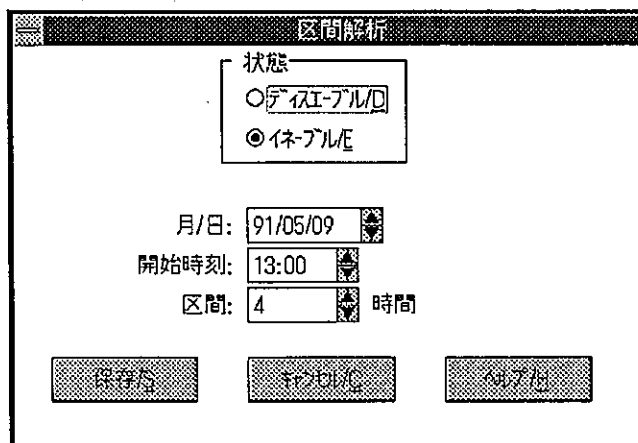
ヒストグラム: 測定データをヒストグラムに表し、平均、標準偏差の統計演算をします。

患者情報: 性別、年齢などの患者情報、担当医や処置のコメントの入力、表示を行います。

4.1 区間解析

区間解析の有効、無効の設定、スタート時刻と区間解析の範囲（時間）を登録できます。

区間解析は任意に設定された時間領域についてのデータ処理が可能になります。



{ 図 10 区間解析設定画面 }

1) ツールバー上の区間解析をクリックします。区間解析設定ダイアログボックスが表示されます。

2) 区間解析の状態をチェック欄にチェックして有効、無効の選択をします。

3) 解析開始時刻、時間幅をアップ / ダウンボタンをクリックして設定するか、キー入力してください。

4) 設定終了後、「保存」ボタンをクリックしてください。

5) 取り消す時は「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

4.2 血圧モード

解析を行う血圧モードを設定します。

- ・オシ法.....オシメトリック法による血圧測定値
- ・1:オシ法 2:コトコフ音法.....オシメトリック法の測定値を主体にします。エラーのときコトコフ音法の測定値で補完をします。
- ・コトコフ音法.....コトコフ音法による血圧測定値
- ・1:コトコフ音法 2:オシ法.....コトコフ音法の測定値を主体にします。エラーのときオシメトリック法の測定値で補完をします。

- 1) ツールバー上の血圧モードのボックスをクリックしてください。血圧モード選択ボックスが表示されます。
- 2) 選択する項目をクリックしてください。血圧モードボックス内に指定項目が明記されます。
- 3) 指定終了後、ダウンボタンをクリックしてください。

4.3 サマリーデータ

全データ、任意区間、昼間、夜間の各時間領域のサマリー表示をします。

	MIN	MEAN	MAX	SD	SE	CV(%)
収縮期血圧 (mmHg)	84	103	174	19.92	2.01	15.00
拡張期血圧 (mmHg)	49	90	115	17.32	1.75	19.21
平均血圧 (mmHg)	61	104	134	17.87	1.81	17.17
脈拍数 (BPM)	37	68	118	14.34	1.45	20.94

収縮期血圧 > 140 mmHg: 45.9% 拡張期血圧 > 90 mmHg: 60.23%

収縮期血圧最大値: 174 mmHg 16:00 5/09/91
拡張期血圧最大値: 115 mmHg 16:00 5/09/91
収縮期血圧最小値: 34 mmHg 3:15 5/10/91
拡張期血圧最小値: 49 mmHg 3:00 5/10/91

[クローズ]

{ 図 11 サマリーデータ画面 }

- 1) サマリーデータuをクリックすると全区間でのサマリー表が表示されます。
- 2) 表示ボックスの区間解析、昼間、夜間の目次タイトルをクリックすると各々のサマリー表が表示されます。
- 3) 「クローズ」ボタンをクリックすると終了します。

4.4 血圧データ

測定された収縮期血圧、拡張期血圧、脈拍数が測定時刻とともにリスト表示されます。

平均血圧とダブルプロダクトを以下の式で計算し同時表示します。

$$\text{平均血圧} = \text{拡張期血圧} + (\text{収縮期血圧} - \text{拡張期血圧}) / 3 \quad [\text{mmHg}]$$

$$\text{ダブルプロダクト} = \text{収縮期血圧} \times \text{脈拍数} \quad [10^2 \text{ mmHg.bpm}]$$

NO.	月日	時刻	SBP	DBP	平均	脈拍	DP	状態	コメント
1	91/05/09	13:00	152	103	119	73	113	0	
2	91/05/09	13:15	154	99	117	74	113	0	
3	91/05/09	13:30	136	99	111	73	99	0	
4	91/05/09	13:45	140	101	114	74	103	0	
5	91/05/09	14:00	145	102	116	78	113	0	
6	91/05/09	14:15	136	95	108	74	100	0	X teisei
7	91/05/09	14:30	150	97	114	78	117	0	
8	91/05/09	14:45	139	97	111	90	125	0	
9	91/05/09	15:00	146	98	114	83	121	0	
10	91/05/09	15:15	147	112	123	83	122	0	
11	91/05/09	15:30	153	106	121	78	119	0	
12	91/05/09	15:45	147	111	123	74	108	0	
13	91/05/09	16:00	174	115	134	76	132	0	
14	91/05/09	16:15	148	115	126	85	125	0	
15	91/05/09	16:30	156	107	123	78	121	0	
16	91/05/09	16:45	138	95	109	78	107	0	

コメント:

 データ削除

{図 12 血圧リスト表示}

- 1) 血圧データ/E をクリックすると取得データ、計算された平均血圧(MAP)、ダブルプロダクト(DP)のテーブル表示をします。
- 2) カーソルの個別データの削除、コメントの挿入を行います。
- 3) 2)の編集操作を行ったときは「保存」ボタンをクリックして下さい。データの保存が実施されます。
- 4) 「クローズ」ボタンをクリックすると終了します。

月日/時刻 測定を行った時刻

SYS 収縮期血圧

DIA 拡張期血圧

MAP 平均血圧

PUL 脈拍数

DP ダブルプロダクト

STATUS

----- x 編集で削除された状態、解析やグラフ表示からは省かれます。

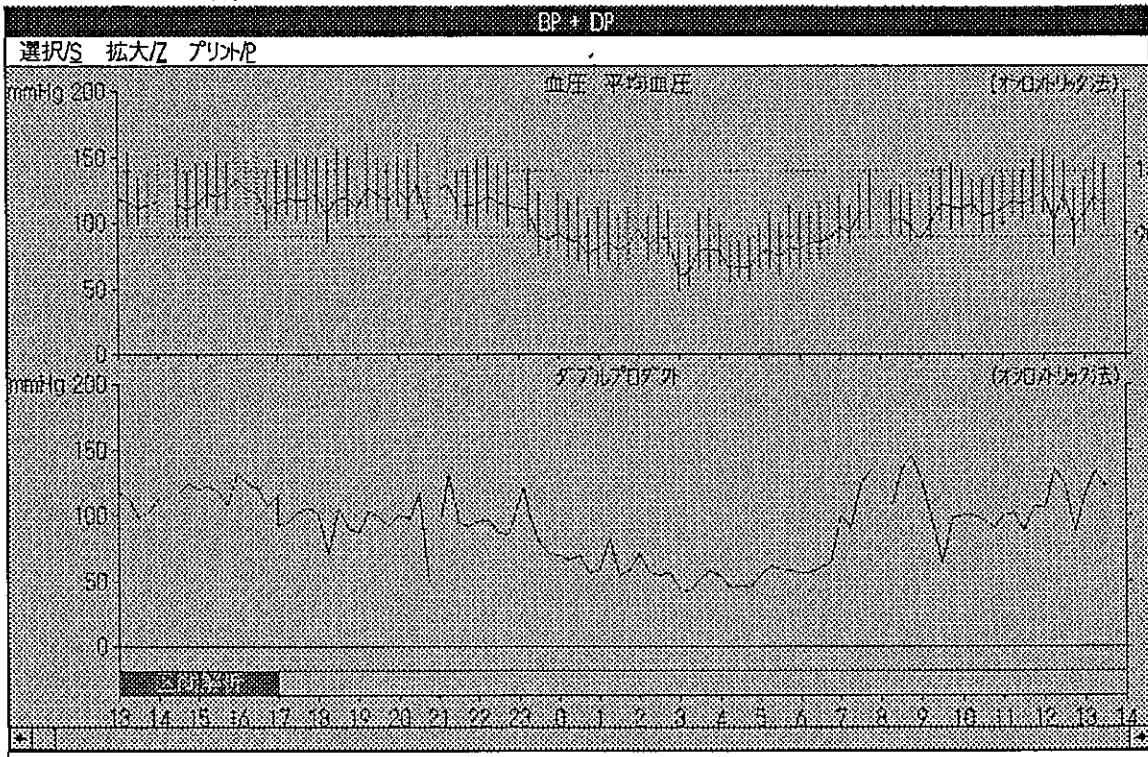
-E----- ログのイベントスイッチにより測定されたことを示す。

---22--- 測定で発生したエラー番号を示しています。エラーの内容はコメント文に示されています。

- O----- 波形法によるデータを示します。
- K----- コトコ音法によるデータを示します。
- コメント 半角文字は 20 文字、全角文字は 10 文字まで入力できます。

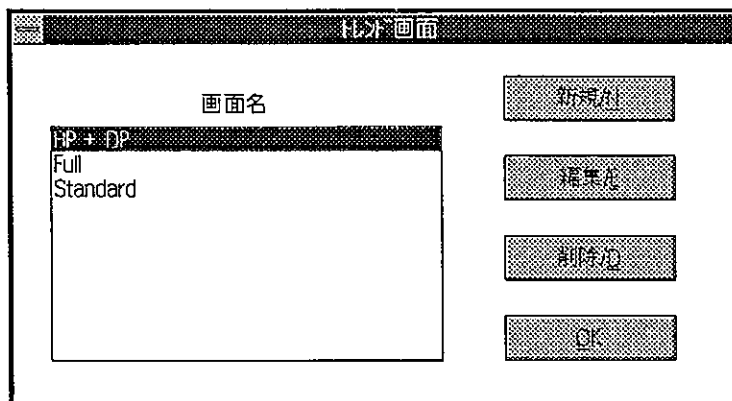
4.5 トレンド

トレンド画面設定 (オプション→トレンド画面) で選択されているデータ (最大 4 種類) のトレンド表示をします。

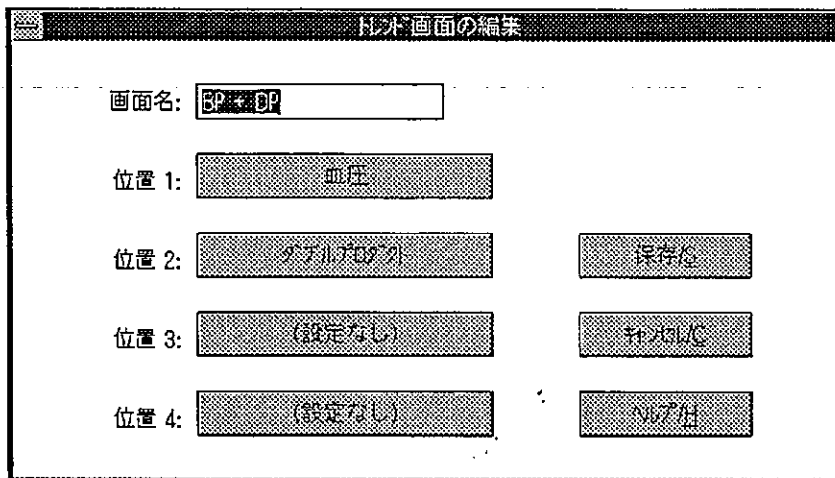


{ 図 13 トレンド画面 }

- 1) トレンド/T をクリックすると選択されている項目毎に分割してトレンド表示をします。
- 2) メニュー上の選択/S をクリックして、表示画面の変更、登録が出来ます。



{ 図 14 画面の指定画面 }



{ 図 15 表示項目の指定画面 }

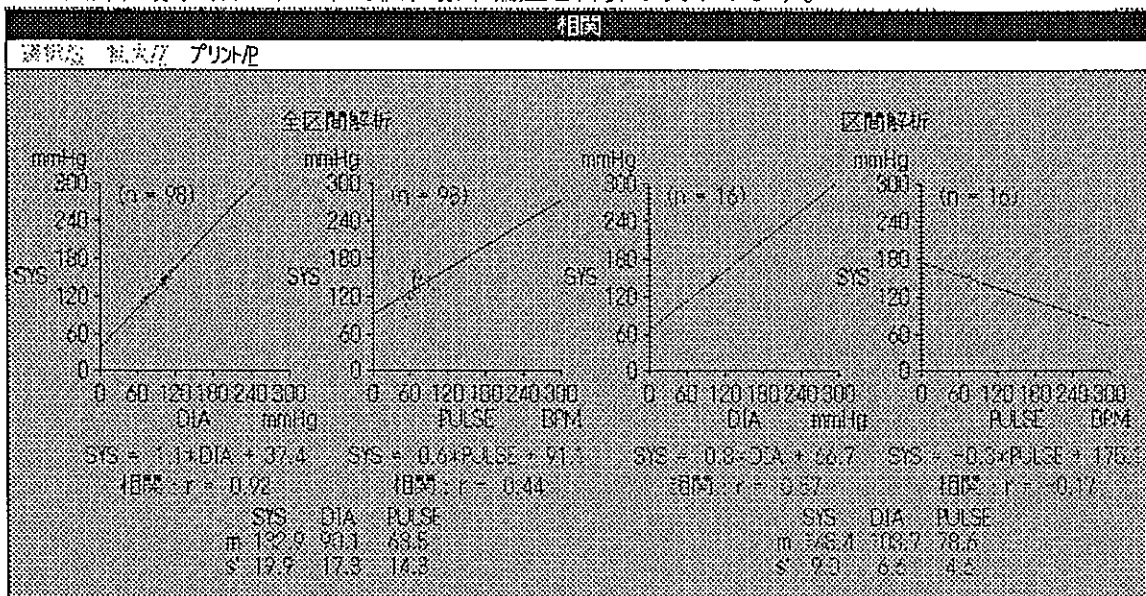
画面名を任意に設定し、表示するデータの指定、レイアウトを登録できます。

- 3)メニュー上の拡大/ Z をクリックして、最大 1 時間までの時間軸の拡大が出来ます。
- 4)メニュー上のプリント/ P をクリックして、画面のハードコピーがとれます。
- 5)トントグラフは水平スクロールバーにより時間軸の移動が出来ます。

4.6 相関図

収縮期血圧と拡張期血圧、収縮期血圧と脈拍数とのあいだの相関解析を行います。

全データについて 及び区間指定の時間領域について、それぞれ、散布図、相関係数と回帰直線、各データの平均値、標準偏差を計算し表示します。

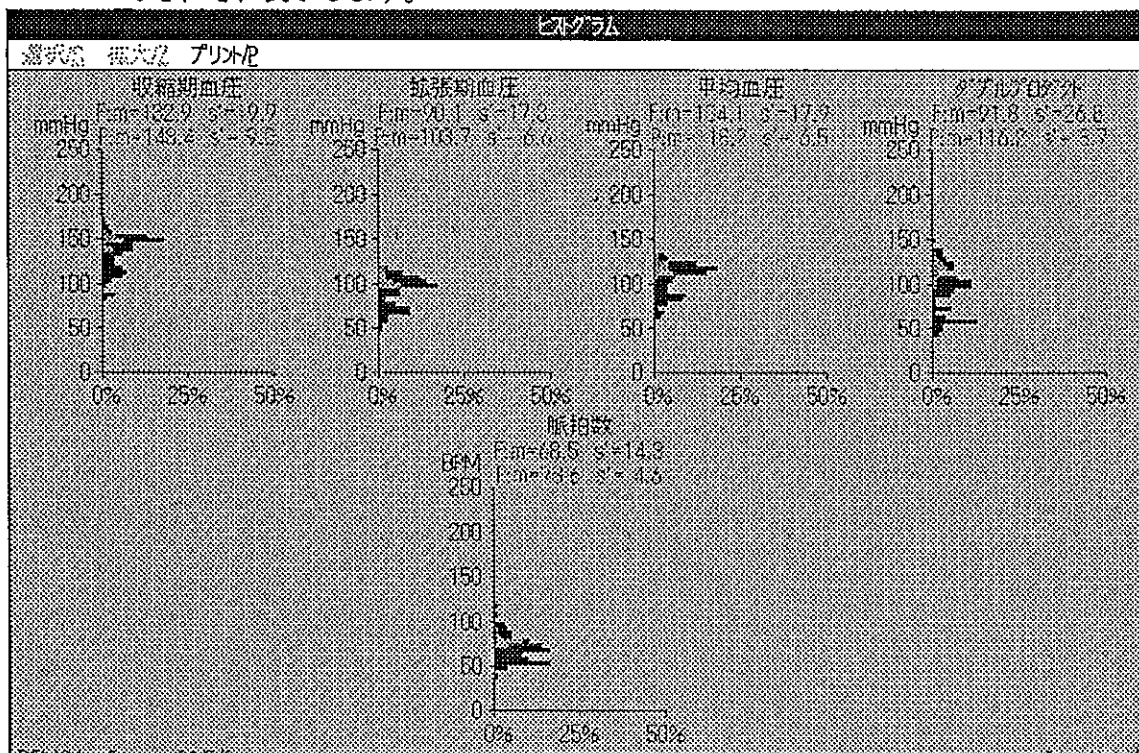


{ 図 16 相関図 }

- 1)相関図/c をクリックすると相関解析の画面が表示されます。
 - 2)メニュー上のプリント/ P をクリックして、画面のハードコピーがとれます。
- 解析区間の設定はツールバー上の区間解析をクリックして変更出来ます。

4.7 ヒストグラム

収縮期血圧、拡張期血圧、脈拍数、及び計算された平均血圧、ダブルグラフ以外のヒストグラムと平均値、標準偏差の各統計値を表示します。全データ及び区間指定された時間領域についてそれぞれ表示します。



{図 17 ヒストグラム}

- 1) ヒストグラム/H をクリックするとヒストグラムの画面が表示されます。
- 2) メニュー上のプリント/P をクリックして、画面のハードコピーが出来ます。

4.8 患者情報

被測定者の名前、年齢、性別などの患者情報と担当医や処置などのコメントの入力、及び就寝時刻の入力が出来ます。患者情報は「.PAT」ファイルが作成され記録されます。

{図 18 患者情報の画面}

- 1)患者情報/Iをクリックすると患者情報の画面が表示されます。
- 2)入力項目を選択してマウスのポインタを合わせクリックするとカーソルが変わり、文字入力出来ます。 キーボードから入力してください。担当医は「リスト」ボタンをクリックすると登録されている医者リストが表示され選択が出来ます。医者の登録は“オプション→医者者リスト”からあらかじめ担当医のリストを作成しておくこと以後呼び出しが出来ます。
- 3)入力後「保存」ボタンをクリックします。患者情報のファイルが作成されます。

5. レコーダ

TM2421レコーダからパーソナルコンピュータへのデータのアップロード、またレコーダ内のデータクリア、測定条件の設定が出来ます。

{図 19 レコーダメニュー}

メインメニューのレコーダ/Rをクリックすると上図のプルダウンメニューが表示されます。項目を選択しクリックすると実行されます。

5.1 データのアップロード

- 1)データアップロード/Rをクリックしてください。TM2421に記録されているデータをパーソナルコンピュータ上に読み込みます。
- 2)ドライブ、パス名、ファイル名を入力すると「---.DAT」ファイルが作成され記録されます。

5.2 データの消去

- 1)メモリークリア/Cをクリックしてください。データ初期化の確認メッセージ「ログ内の全てのデータが消去されます。」が表示され、OKボタンをクリックすると実行されます。

5.3 測定条件の設定

ログの測定項目、ログのID、日付/時刻、表示 ON/OFF、ブザー音 ON/OFF、インターバルの各種設定を行います。

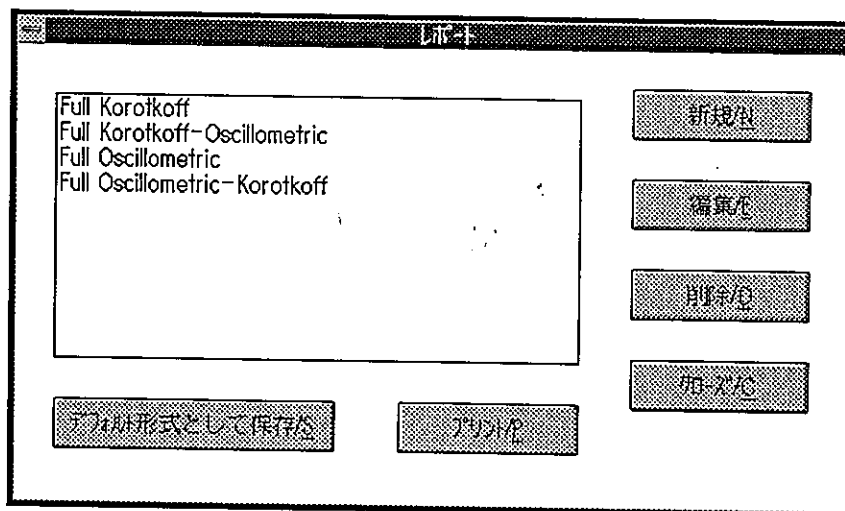
区間	時刻	測定間隔
1	0	OFF
2	0	OFF
3		OFF
4		OFF

{図 20 設定画面}

- 1)設定/Sをクリックしてください。設定画面が表示されます。
- 2)ID、時刻はキーボードから入力します。表示 ON/OFF、ブザー音 ON/OFF はチェックマークをクリックして入力します。OKボタンをクリックすると設定内容がログへ転送されます。

6. 報告書作成 ファンクション

測定データの解析内容（テキストデータ、グラフデータ以下参照）を選択し印刷が出来ます。プリンター機種については、Windows上デバイス設定され接続状態にあるプリンターの使用が可能です。



{ 図 21 報告書作成画面 }

テキストデータレポート

- 患者情報
- サマリーデータ
- 血圧データリスト

グラフデータレポート

- 血圧データトレンド
- ダブルプロダクトトレンド
- 脈拍データトレンド
- 相関図
- ヒストグラム

報告書出力は、登録されているレポート形式が印刷できます。レポート形式の登録は、レポート形式編集機能を使い前述内容より選択し自由に設定・変更が出来ます。一度登録されたレポート形式は、消去をしない限り有効です。（編集登録方法についての詳細は、オプションメニュー内レポート形式を参照して下さい。）

メニューバーのレポート/pをクリックすると { 図 21 報告書作成画面 } の様なダイアログボックスが表示されます。

*既に登録されているレポート形式を利用して報告書出力をする。

- 1) 報告書 ダイアログボックス内 レポート形式名 (“Full Korotkoff”,) をクリックし選択して下さい。
- 2) 報告書ダイアログボックス内「プリント」ボタンをクリックして下さい。
(選択されたレポート形式内容に従って報告書出力を実行します。)

*既に登録されているレポート形式を再編集後報告書出力する。

- 1) 報告書ダイアログボックス内レポート形式名をクリックし選択して下さい。
(再編集したいレポート形式名を選んで下さい。)
- 2) 報告書ダイアログボックス内「編集」ボタンをクリックし編集して下さい。
(詳細編集方法は、オプションメニュー内レポート形式を参照して下さい。)
- 3) 報告書ダイアログボックス内レポート形式名より再編集した形式名をクリックし指定して下さい。
- 4) 報告書ダイアログボックス内「プリント」ボタンをクリックして下さい。
(再編集されたレポート形式内容に従って報告書出力を実行します。)

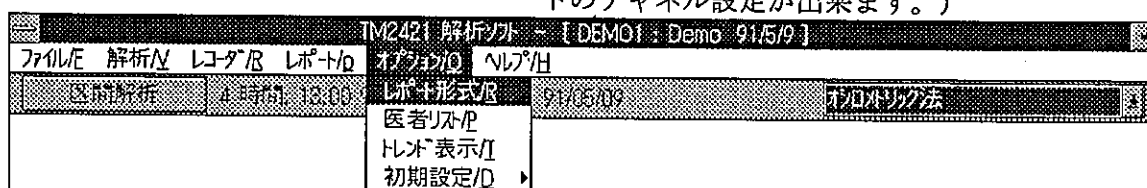
*新たにレポート形式を編集登録後報告書出力をする。

- 1) 報告書ダイアログボックス内「新規」ボタンをクリックし編集登録作業を行って下さい。(編集登録方法については、オプションメニュー内レポート形式を参照して下さい。)
- 2) 報告書ダイアログボックス内レポート形式名より登録した形式名をクリックし指定して下さい。
- 3) 報告書ダイアログボックス内「プリント」ボタンをクリックして下さい。
(別紙に報告書出力例を添付します。)

7. オプション ファンクション

メニューバーのオプションをクリックすると図 22 の様なコマンド表示されます。各コマンドを選択しクリックする事で実行できます。

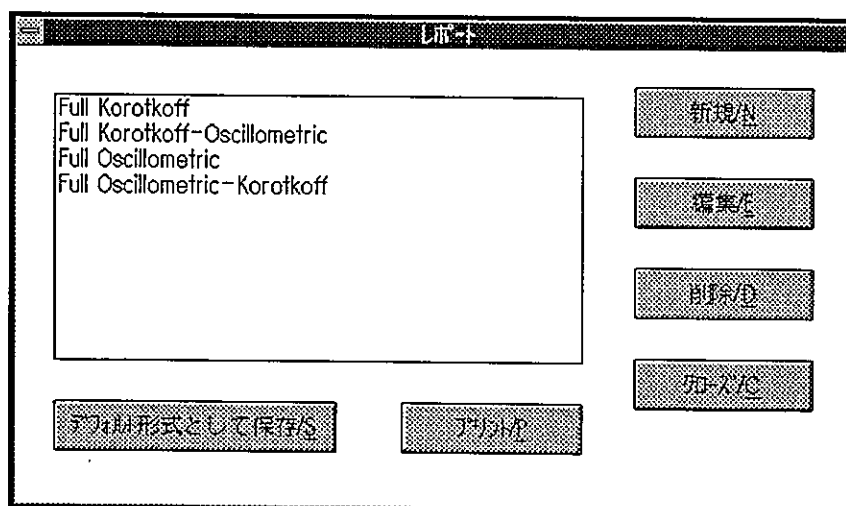
- レポート形式 …………… (報告書出力項目の編集登録が出来ます。)
- 医師リスト …………… (担当医師名及び連絡先等編集登録が出来ます。)
- トレンド表示 …………… (トレンドグラフ表示項目の編集登録が出来ます。)
- 初期設定 …………… (血圧モード、血圧境界値の設定とシリアルポートのチャンネル設定が出来ます。)



{図 22 オプションメニューコマンド表示}

7.1 レポート形式

このオプションコマンドは、必要な報告書形式を編集登録することが出来ます。登録すると容易に希望する報告書出力が得られます。



{図 23 レポート形式コマンドダイアログボックス}

初期設定形式として図中4種類を登録します。

- 1) Full Korotkoff …… K音にて判定されたデータのみを扱い、すべての解析内容を出力します。
- 2) Full Korotkoff
 - Oscillometric …… K音にて判定されたデータを主としオシロメトリック判定されたデータで補間をしたデータを扱い、すべての解析内容を出力します。

3) Full Oscillometric・オシロメトリック判定されたデータのみを扱い、すべての解析内容を出力します。

4) Full Oscillometric

- Korotkoff・・・オシロメトリック判定されたデータを主としK音判定されたデータで補間をしたデータを扱い、すべての解析内容を出力します。

*レポート形式コマンド（又は、レポートメニュー）ダイアログボックス表示時レポート形式名で示す（青色のリバース表示）位置が記憶できます。

毎回固定内容で報告書作成する時に初期指示位置を設定することでより簡単な操作で報告書出力することが出来ます。

1)レポート形式コマンド（又は、レポートメニュー）ダイアログボックス表示内の登録済みレポート形式名で、初期指示位置にしたい箇所をクリックして下さい。（青色のリバース表示になります。）

2)同ダイアログボックス表示内「デフォルト形式として保存」ボタンをクリックして下さい。

（ダイアログボックス表示時はいつでも上設定名が指示されます。）

*報告書出力が出来ます。

1)「プリント」ボタンをクリックして下さい。

*レポート形式コマンドを終了します。

1)「クローズ」ボタンをクリックして下さい。

*新たにレポート形式を作成し登録する。

1)レポート形式コマンドダイアログボックス内「新規」ボタンをクリックしてください。レポート形式新規ダイアログボックスが表示されます。（図 24）

{図 24 新規ダイアログボックス画面}

- 2)登録名をキー入力してください。レポート形式コメントやレポートメニューダイアログボックス表示時の登録名一覧に表示されます。
- 3)レポートヘッダーをキー入力してください。報告書出力時用紙上段にタイトル名が印字されます。
- 4)テキスト或はグラフデータより報告書として出力したい内容を選択します。項目のチェック欄にチェックマークをクリックして入れてください。
- 5)血圧判定モードも同様にして選択します。
- 6)「保存」ボタンをクリックすると設定した内容が登録されます。取り消す時は「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

*既に登録されているレポート形式を編集する。

- 1)レポート形式コメントダイアログボックス内の「編集」ボタンをクリックしてください。
- 2)レポート形式編集画面があらわれます。レポート形式の更新と同様に選択し直してください。

*登録されているレポート形式の削除。

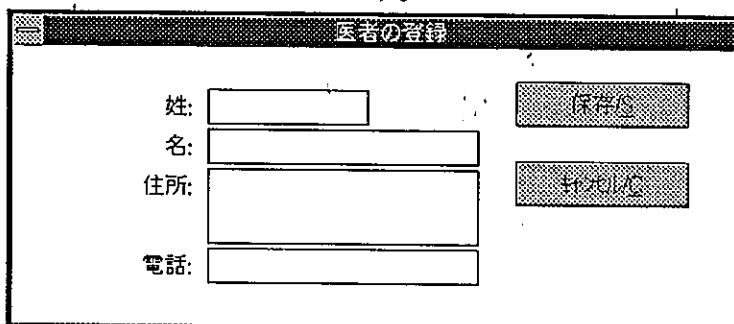
- 1)レポート形式コメントダイアログ内の形式名の中から削除したい形式名を選択してください。
- 2)「削除」ボタンをクリックしてください。確認ボックスが表示されます。
- 3)OKボタンをクリックすると実行します。

7.2 医者の登録オプション

医者リストの登録、編集、削除が出来ます。患者情報作成時、担当医の項目に転記することが出来ます。

*新しく医者を登録する。

- 1) 医者登録コマンドダイヤログボックス内の「新規」ボタンをクリックしてください。登録用ダイヤログボックスが表示されます。



{ 図 25 医者登録画面 }

- 2) 姓名、住所、電話番号など必要箇所をキー入力してください。

- 3) 「保存」ボタンをクリックすると登録されます。取り消す時には「キャンセル」ボタンをクリックします。

*既に登録されている医者リストを編集する。

- 1) 編集したい医者を選択し、医者リストコマンドダイヤログボックス内の編集ボタンをクリックしてください。医者エントリー編集ダイヤログボックスが表示されます。

- 2) 既に登録されている内容が表示されています。編集したい箇所をクリックしキー入力してください。

- 3) 「保存」ボタンをクリックすると登録されます。

*登録医の削除

- 1) ダイヤログボックス内の登録医リストから削除する人名を選択してください。

- 2) 「削除」ボタンをクリックしてください。確認ボックスが表示されます。

- 3) OKボタンをクリックしてください。削除が実行されます。

7.3 トレンド画面編集オプション

グラフィック表示をするトレンド画面のデータの選択、レイアウトを設定します。複数のトレンド画面の設定が出来、画面名を登録できます。トレンド画面は1画面4項目まで同時に表示できます。

*新しくトレンド画面を登録する。

- 1) トレンド画面編集ダイヤログボックス内の「新規」ボタンをクリックしてください。新規トレンド

画面登録ダイアログボックスが表示されます。

{ 図 26 トレンド画面登録 }

- 2)トレンド画面名に登録する画面の名称を入力してください。
- 3)トレンド表示時、画面上部から位置 1、2、3、4の順に配置されます。項目指定のボックスをクリックすると表示項目の選択ダイアログボックスが表示されます。
- 4)ダイアログボックス内の各項目より、現在指定している位置に表示する項目を選んでください。
 - 血圧 : 収縮期血圧、拡張期血圧、平均血圧の表示選択が出来ます。
 - ダブルワグ外 : 収縮期血圧、脈拍数より算出したデータです。
 - R_Rデータ : 脈拍数が表示されます。
 - (設定なし) : グラフ位置を無効にします。
- 5)選択を終了し登録する時は、新規トレンドページダイアログボックス内「保存」ボタンをクリックして下さい。
- 6)取り消す(登録しない)場合新規トレンドページダイアログボックス内「キャンセル」ボタンをクリックして下さい。

*既に登録されているトレンド画面を再編集する。

- 1)トレンド画面編集ダイアログボックス内で編集する画面名を選択し、「編集」ボタンをクリックしてください。その画面の現在登録されている設定画面が表示されます。
- 2)変更する箇所をクリックして編集してください。
- 3)編集が終了し登録する時は、「保存」ボタンをクリックしてください。
- 4)取り消す時は「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

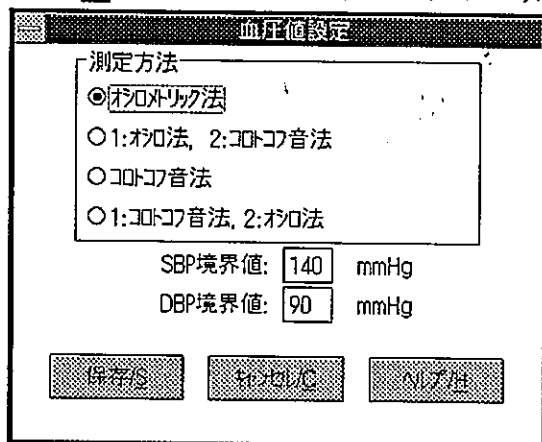
7.4 初期設定オプション

血圧値設定：オシメトリック法或はコトコフ音法の解析する血圧測定モードの選択、収縮期血圧と拡張期血圧の基準値以上の割合を計算するための上限値設定を行います。

シリアルポート設定：レコーダとのシリアルコミュニケーションポートの選択をします。

* 血圧値設定

血圧設定/Bを選択すると血圧設定ダイアログボックスが表示されます。



{ 図 27 血圧設定画面 }

1)チェック欄をクリックして、血圧測定方法を選択してください。

2行目 1:オシメトリック法 2:コトコフ音法 :オシメトリック法を主体としますが、エラーのときコトコフ音法の測定値で補完します。

4行目 2:コトコフ音法 2:オシメトリック法 :コトコフ音法を主体としますが、エラーのときオシメトリック法の測定値で補完します。

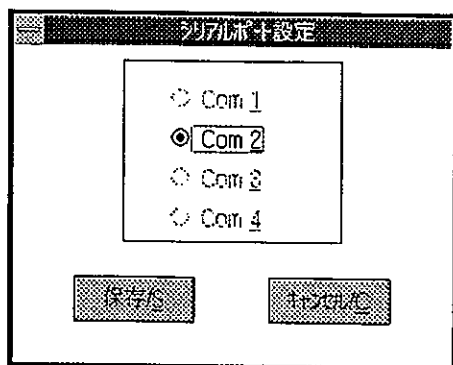
2)収縮期血圧、拡張期血圧の上限値をクリックして選択し、キー入力してください。

3)設定終了後、「保存」ボタンをクリックしてください。

4)取り消す時は「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

* シリアルポート設定

シリアルポート/Sを選択するとシリアルポート選択ダイアログボックスが表示されます。



{ 図 28 シリアルポート設定画面 }

- 1)チェック欄をチェックして Com1～Com4 の中から選択してください。使用可能なポートは通常表示、使用できないポートは薄く表示されています。選択できるポートは通常表示のポートです。
- 2)設定終了後、「保存」ボタンをクリックしてください。
- 3)取り消す時は「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

8. ヘルプメニューファンクション

各メニューファンクション、のヘルプ情報と本ソフトのバージョン情報を記述しています。

- ・概要：本ソフトの全体の機能についての情報
- ・ファイル：ファイルメニューについての情報
- ・解析：解析メニューについての情報
- ・レコーダ：レコーダメニューについての情報
- ・レポート：レポート作成についての情報
- ・オプション：オプションメニューについての情報
- ・ヘルプ：ヘルプメニューについての情報
- ・区間解析：区間解析についての情報
- ・血圧モード：血圧モードについての情報
- ・エラーコード：エラーコードについての情報
- ・用語：用語についての情報
- ・バージョン：本ソフトについてのバージョン情報

- 1)ヘルプ項目をクリックしてください。関連する情報が表示されます。
- 2)ヘルプを終了する時はコントロールメニューバーをクリックし、クローズコマンドをクリックしてください。